

兵士の生活

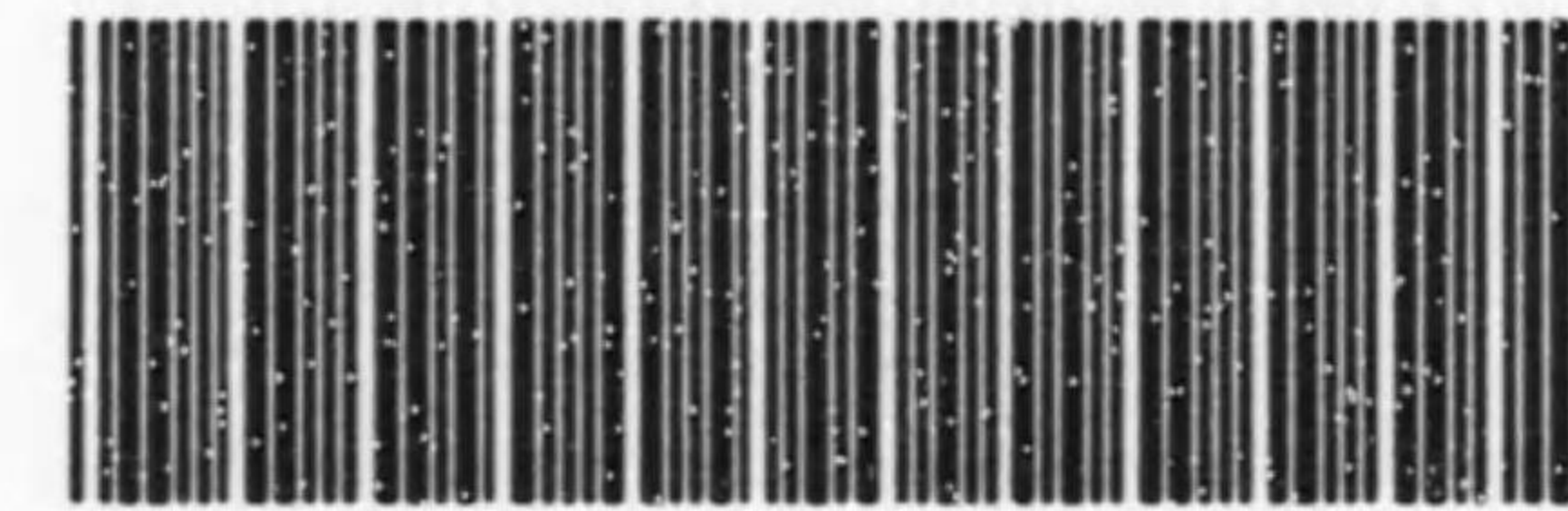
(反戦パンフレット 糸巻)

鈴木小兵 著

国立国会図書館

特501

927



\*0056124000\*

0056124-000

特501-927

兵士の生活

鈴木小兵・著

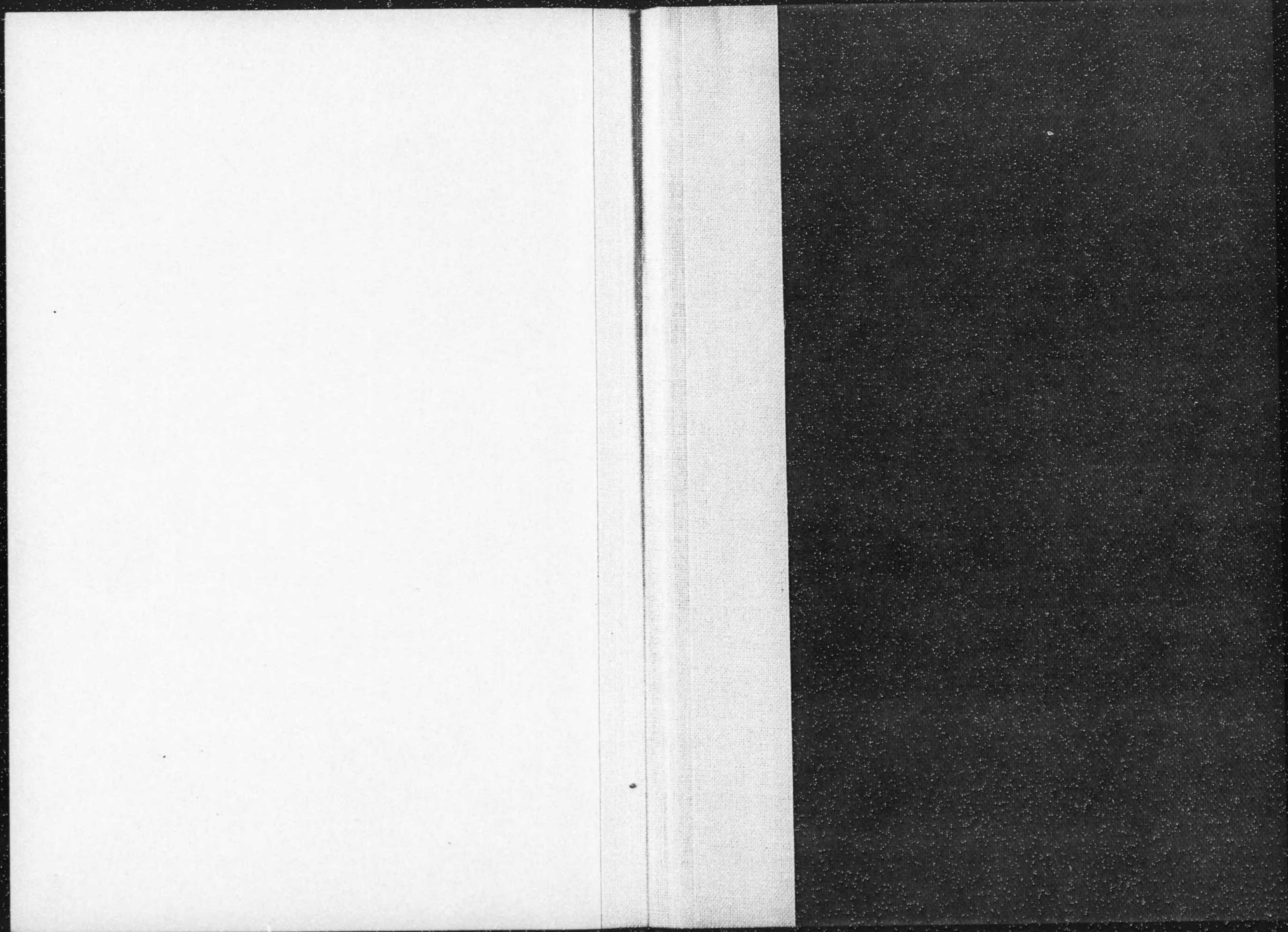
戦争反対同盟準備会

昭和4. 1

AJB

1

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法  
第67条の規定に基づき、平成12年3月2日  
付で文化庁長官の裁定を受け使用するものです



1159  
12

函 送  
號 PD  
永久保存

反戦パンフレット第二編

兵士の

生活

省 4.1. - 8 本

戦争禁止

戦争反対同盟準備會發行

特 501  
927



80W20215

十二月一日

十二月一日は目前に迫つてゐる。其日には數萬人の勞働者農民の若い息子達が否應なしに年老いた父母や、愛する妻や、幼い弟妹達から引離されて、「名譽ある國民の義務」を果すために兵營に送り込まれる。此の若者達は此の「名譽ある國民の義務を案すことに對しての多くの賞め言葉と萬才の渦きの中で半ば夢心地で二年の勞役に、バラツクの門をくぐるのだ。だが一時の興奪は人を間違つた考えをもたせることがあるそれで我々は之等の美しい言葉や夢中に叫ぶ萬才やらを抜きにしてこの入營といふ事がこの若い我々の兄弟達にとつてどんな結果を作り出すかを冷静に考へてみなければならぬ。何故ならば、切角一人前になつた一家の働き手を一年間手放して了ふといふ事は我々貧乏暮らしの勞働者農民にとつては仲々容易ならぬことだから。

入營は、喜びか？ 悲しみか？

入營の時には近所の人やら在郷軍人會の人やら村長さんやらが皆お祝ひの言葉を述べてくれる。「祝某君之入營」と記した旗を作つてくれる。そして多數の人達が停車場迄又は朝早く兵營まで見送つて来てくれて、聲を揃えて「萬才々々」と叫んが呉れる。それでは入營は我々の兄弟達にとつて喜しいものでらうか。或はそれは間違ひなのか。それを決める一番確かな方法は、入營がその若者

やその家族達に對して生み出す結果をありのままに考へて見ることだ。

我々労働者や農民にとつてその若い兄弟達の入營によつて生み出される直接の結果は、一家の一番の働き手を奪はれるといふことだ。小學校に通つてゐる十や十三の子供達を休ませて一日十錢か十二錢の賃仕事をさせたり、野良を手傳はせたりしてさえ食ふや食はずでゐるのが我々労働者農民の生活だ。小學校を終えさせる迄育て上げるさ頼我々には容易でないのが、廿、廿一といへば漸く一人前の仕事も覺えて若しい一家の生活の杖柱として負み始める時なのだ。我々の生活を支えるになくはならぬ働き手なのだ。親一人子一人の者も居るだらうし、若い妻が孕つてゐるものもあらう。そしてそれ等家族達はこの若者一人を頼みに生きてゐるのだ。それが二年間奪はれるのだ。泣いても笑つても駄目だ。事情を打明けて涙を流して頼んだつて駄目だ。××がそれを命ずるのだ。若し之を拒む者には牢獄と××の佩劍とが與へられる許りだ、如何に一家の生活が悲惨にならうと、困うと、幼む弟妹が餓えやうと、病める父が死期を早めやうと、此「名譽ある國民の義務」から逃れることは出来ないのだ。それは労働者農民に對して××をもつて強制されてゐる恐い負擔だ。それならば何故祝詞を述べたり「萬才」と叫んだ題するのか。それは、「そうしろ」と命令されそしてそうやりつけて來た

からだ。それ以外に理由はない。それならば、誰が、何故、「そうしろ」と命令するのか。それは、此恐い負擔を労働者農民に負擔させ様とする××階級が、この恐い負擔を誤間化して、不平を言はせない爲に命令するのだ。この苦痛を脊負ひ込む瞬間に萬才を叫べとは随分酷い皮肉だ。僞善だ。だが、この「名譽ある義務」の兵役が止むを得ないものならばそれは仕方がない。併し少くともこの恐い負擔は貧しい我々から取り去られなければならない。つまりこの義務を負はせる代りに入營者の家族の生活は少くとも國家が保證せねばならないのだ。それでなければ我々貧しい労働者農民は到底安心してこの「名譽ある義務」を果すことが出来ないからだ。我々は美しい賞め言葉や、旗や萬才やで我々の老父母や幼い弟妹達の空腹を満すことも出来ないから。我々は美しい賞め言葉や、旗や萬才我々には米と綿の入つた布圍とが必要なのだ。

それに、入營による解雇は労働者の生活を一層惨めにする。失業者の有り余つてゐる今、工場へ入るのは容易なことではない。傳手を求めたり、金を費つたりして仲々入れない。何ヶ月も金の入らなかつてもなく居食ひしなくてはならない。それと解雇になるのだ。今はどこの工場でも一般に不景氣で人減しをしたがつてゐるのだ。それで入營を機會に遠慮なく首を切るのだ。日頃は「國家のために從順く働け」と言ひ聞かす資本家達もこの國家のための義務を果しに行く労働者に對しては、全く容

謝なく首を切るのだ。かゝる首切りから労働者を防ぐことは、この義務を命ずる國家の也めてもの責任ではないのか。

### 兵士 の 生活

入營が我々にとつて實に大きな負擔であることを我々は見た。所でこの様な負擔を忍んで入營した人達は果して「名譽ある國民の義務」の遂行者として相應しい生活をしてゐるたらうか。まづ給料について考へてみる。すると驚く。二等卒の日給はタツタ十五錢だ。タツタ十五錢で大の男が朝から晩まで使はれるのだ。一ヶ月に四圓五十錢の給金だ。一等卒が十七錢上等兵が二十錢だ。政實協定による兵卒優遇費が來議曾通過したとしても、一ヶ月一圓つまり一日三錢三厘の値上げにしかならない。十八錢三厘では半熟練工の一時手間にも當らない程だ。而も此の金が全部自分の小遣ひに使へる譯ではない。といふのは、一つには手袋とか、靴下とか、洋服のボタンとかいふ様な官給品が失はれたり又時々盗まれたりするし、他方には下士又は古參兵等の上官から洗濯や靴みがき等を命ぜられたりするからだ。萬一官給品がたゞのボタン一個でも失ひ放して置いたならば早速嚴重に所罰されるので、どうしても自分の金でチヤンと買ひ調べておかねばならないし、上官から命ぜられる洗濯の石鹼や、靴みがきの靴墨などもその少し許りの日給から搾り出さなければなら

らない事が多いのだ。その上労働が烈しいので定められた食物だけでは腹が空るし、體が疲れると大騒ぐどんパン等の甘い物が食べたくなるから到底この僅かな日給では足りなくなるのだ。家族へ送る所か、貧しい家族から逆に金を送らせねばならない程だ。労働は烈しい。朝の暗い内に起きて消燈迄午前午後の教練に重い銃を肩へメリ込ませて泥だらけの重い靴で練兵場を馳け廻らせられる許りでなくその合間の時間には服や銃の手入れとか、ボタンみがきとか靴掃除とか、洗濯とかと自分の分だけでなく古參兵の分までやらされて一分間も體の休む暇とてはないのだ。そしてやつと死んだ様に疲れて棄不用と毛布の中にもぐり込むと又冷たい朝霜を突抜いて起床ラツバが又しても仕事に叩き起すのだ。いやそれ所か、新兵達は起床ラツバの一時間も前の眞暗らな内からタタト起きて仕事を始めなくては到底雜事が間に合はず、下士達の恐ろしい眼が光るのだ。演習になればもつと悲惨だ。着のみ着のままで何貫目もある脊裏を脊負つて雨風にさらされる泥沼にも飛び込み碌々眠る暇さえもない事も屬々だ。春秋はまだよいが冬は寒さで倒れるし夏は暑さでやられるのだ。毎夏日射病で死ぬ兵士の数は決して少くない。それが一日十五錢の労働だ。それが「名譽ある國民の義務」の負擔者に與へられる生活だ、それが自分の一家の苦しい生活を犠牲にして、國家の義務に従つた人々に對する正しい報酬なのだらうか。否だ。斷じて否だ。

物質的には以上の様に我々「名譽ある國民の義務の負擔者」に與へられる生活は余りにも酷い。それで、精神的にはどうか。「名譽ある國民の義務の負擔者」に相應しい名譽が與へられてゐるか。我々は已に入營する兄弟達に對して多くの賞め言葉が與へられる事を見た。だが我々にとつて重要なのは單に口先だけの言葉ではなくて「名譽ある國民」としての取扱ひが重要なのだ。兵士はどんな取扱ひを受けるか。彼等は名譽ある國民として尊敬されてゐるか。否だ。名譽ある人格として認められてゐるか。否だ。正反對だ。そこにあるものは××服従だ。人格の全くの無視だ。そこでば理由を述べることとは許されないのだ。どんな無理なことであらうと間違つてゐやうと上官の命令には従はねばならないのだ。自分の親兄弟に自銃を向けて××と命ぜられても拒むことは許されないのだ。上官の命令は恐しい刑罰によつて強制される。場合によつては死刑すら課せられる。そこでは「何故？」と問ひ返すことは絶対に許されない。理由なしの命令である。ここで「名譽ある國民」は只將棋の駒の如く、もつと別の言葉で言へば士偶坊の如く動かねばならないのだ。つまりここでは此「名譽ある國民」は「人間扱ひにされない名譽」を與へられるのだ。それは先刻言つた賞め言葉とは正反對のものだ。我々はそんな言葉やお喋りは要らないのだ。我々は「人間扱ひ」がして貰ひたいのだ。我々の兄弟達の或る人は「××は別世界だ」といつて、この酷い生活條件や士偶坊扱ひを當然

の事の様考へてゐる。飛んでもない間違ひだ。何であらうとそんな酷い生活條件や士偶坊扱ひは許されないのだ。我々労働者農民は前には如何に賃金を引下げられ様と、一文の手當も貰へず首を切られ様と、どんな酷い地代を取立てられ様と、長い物には巻かれるであきらめて來た。だが最近では我々が互ひに腕を組み合つて我々の正しい要求を掲げて闘争することによつて少しづつ生活を治し始めてゐるのだ。「斷じて別世界ぢやない」我々の住む同じ世の中だ。我々の團結と闘争によつて我々の正當な要求を必ず貫徹することが出来るのだ。又、どうしても貫徹しなければならぬのだ。長い物には巻かれるといふ奴隷根性が我々をこの惨めな状態に置き放しにしてゐるのだ。その奴隷根性を棄てて「國民の義務」の負擔者としての當然な生活と自由とを闘ひとらねばならぬのだ。

### ××は何をするか？

「××は何をするか」と尋ねたならば、大部分の人達は口を揃えて答えるのは御國を守るのだ」とだ。が、持て、我々は先に美しい賞め言葉や萬歳の叫びの影に我々の一家の悲惨な生活の強制されてゐる事實を見た。そして更に「名譽ある國民」の名の下に、「極端に惨めな生活をするこの名譽」と「人間扱ひにされないこの名譽」とが與へられてゐる事實を見た。此御國を守るといふ美しい言葉の影にも何か別な事實があるのではなからうか。我々には「美しい言葉」ではなく、「正しい事實」が必

要なのだ。

我々は之をXXに就いて考へる前に他の一つの己によく知つてゐる事實について考へやう、それは官Xに就いた。官Xは人民を保護し人民の秩序を正しくするものだ。」と我々は嘗つて教えられて来た。だが 労働者農民の経験は、「官Xは我々の命く當然な要求をサーベルと泥靴で踏みにし、我々の最も勇敢な闘士達を牢獄に繋ぐことによつて資本家地主を援ける我等の憎む可き敵だ」といふ前の美しい言葉と正反對の事實を痛切に教えてゐることだ。XXに就いても同じ様な事實を見出しは爲ないだらうか。

我々は同じ事實を見出すのだ。大正十年神戸の川崎造船所の一萬三千の兄弟達が生活の改善と團結權とを要求して敢然と起つた時には、資本家松方を援けてこの争議を打潰すために姫路の第十師團第三十九聯隊の中の一團大隊が出動し、更に當時機装中の軍艦「大井」の乗組水兵は陸戦隊を組織し劍付銃を以つて「民衆保護」の名の下に、「會社の警備」についたのだ。先年小樽高等商業學校の軍事教官である一現役軍人は「某工場の労働者が蜂起せり」との想定の下に演習を行つて問題を惹起した。北九州の某師團では常にその附近の大工場、鑛山の労働者のXXの假想の下に演習を行つてゐると言はれてゐる。更に小さいが手近い例は今夏の東電従業員解雇反對の一演説會に數十名の兵士が會

場の周圍に配置された事實を我々は見たのだ。

外國に於ける労働者農民の彈壓をXXが果した事實は更に豊富だ。一九〇三年のオランダの鐵道従業員の總同盟罷業に於いても、一九〇四年のハンガリーの鐵道従業員、總同盟罷業に於いても現役兵が動員されて争議を打潰した許りではなく鐵道従業員の中の豫備兵、後備兵が召集されて罷業破りを強制命令されたのだ。更に我等は一九〇五年一月九日の赤き日曜日を思ひ出す其の日十數萬の餓と寒とに打慄えたロシアの労働者農民の老若男女が自分達がどんなに慘めな生活をしてゐるかを父なる皇帝に訴えたならば必ず救つて下さるに違ひないと信じ切つて、ガボン僧上を先頭に十字架を掲げて一片の武装も勿論なく皇帝の御名を唱えてパンと薪とを求めに皇帝の宮殿に向つて進んだのだ民衆は皇帝がこの當然の要求を容れて自分達を救つて下さるものと信じ切つてゐた。それなのに、與へられたものはパンと薪とではなくてコザツク兵の一齊射撃だつた眞白い雪の廣場は民衆の赤い血汐と黒い屍とで色彩された。ロシアの労働者農民は自分の兄弟達の血と屍とによつて學んで「ツァーブルは自分達の味方ではない。Xだ。そして、XXはこの民衆の當然の要求を打碎く力だ。

現在の政府が資本家地主の完全な手先であることを我々の凡ての経験が示してゐる現在の政府の凡ゆる機關が議會でも裁判でも何もかもが資本家地主の利益のためにのみ使はれてゐることを我々は自



分自身の眼で見てハッキリと知つてゐるのだ。それでその政府の機關の中の一つである今のXも亦資本家地主の手先である政府の下にある以上はやはり資本家地主のためのにのみ用ひられることは明白なことではないか。その事實を彼等は「御國を守」といふ美しい言葉で塗り潰さうとしてゐるのだ。たそうだい。XはX階級の最も露骨な労働者農民の弾壓の力なのだ。京濱國道の完成は國內の騷擾に對する軍隊送のためだと云はれてゐる。大正九年の米騒動にXは民衆を鎮壓しなかつたか。大正九年三月一日の朝鮮の萬才事の時Xは數萬の朝鮮民衆をX殺しなかつたか。大正十二年九月一日の大震災の時Xは數千の朝鮮同邦と多數の労働運動の指導者達を殺さなかつたか。Xは力だ。最も強力な力だ。それは労働者農民の要求を決定時間に粉碎するための最も有力な力なのだ。それ故にこそXでは絶對服従が要求されるのだ。何故なればその瞬間にX内の我等の若き兄弟達は「汝の兄弟に向つてX」と命ぜられるからだ。

### 戦 争

「外國との戦争の時はどうするか。國を守るのではないか。」多くの兄弟達は云ふかも知れぬ。だが、よく戦争の結果を見よ。戦争は誰の爲にされたのか。資本家のためにか、労働者農民の爲にか。戦争で利益を受けるのは誰か。資本家地主か、それとも労働者農民か。戦争の費用を出し、戦争で多く

殺されるのは誰だ、資本家地主か、労働者農民か。日露戦争はXの資本家共と帝政ロシアの資本家共との満洲朝鮮に於ける利権の争奪戦だつた。Xは勝つて満洲と朝鮮とを勢力範圍にした。だがその利益は誰がとつたか。朝鮮の土地の大部分を所有して何十割といふ配當をしてゐる東洋拓殖会社や三菱の利潤を受け取るのは誰だ。日本の資本共だ。満鐵の利益配當金を受取るのは誰だ。日本の資本家共だ。數十億の戦費を負担したのは誰だ。租税の大部分を負担してゐる農民労働者だ。殺されたのは誰だ。農民労働者だ。日露の労働者農民は互の資本家共の利益のために殺し合ひをやらされたのだ。山東出兵だつてそうだ。山東省の利権を受け取るのは大倉や三井だ。殺されたのは日支の労働者農民だ。費用は全民衆の負擔だ。その上支那労働者農民の運動は弾壓されたのだ。一千萬人の労働者農民を殺し、數億の民衆を飢えにつき落した歐州大戰も英獨の資本家共の利益争ひからだ。そして其等の戦争は何れも「御國を守れ」又は「邦人を守れ」の美名の下に公然と行はれたのだ。此所でも又我々は「祖國を守れ」の美名の下に「資本家の利益のための労働者農民の極度の搾取と大量的殺」の正反對の事實に行當るのだ。

### どうすれば良いか。

我々は入營が我々労働者農民にとつて恐しい負擔であることを見た。Xの生活が極度に劣悪なも

のであり人格の全き無視であることを見た。更に××は必竟労働者農民××壓の力であることを見た。そして最後に「××を守れ」の美名は全くの偽りであり、資本家地主のみの利益のための労働大衆の搾取と×殺であることを見た。それではどうすればよいのか。闘争だ。労働者農民の闘争だ。闘争だけが我々の眞實の利益を守ることか出来るのだ。資本家地主とその手先共は我々を搾取しただけしか老へないのだ。我々の不屈の闘争だけが彼等の手から我等の眞實の利益をもぎ取ることが出来るのだ。長いものには巻かれるといつた奴隷根性を棄てる！起て！闘へ。スローガンはこれだ。

入營者解雇反對!!

兵卒の家族の生活を保證しろ!!

兵の人権を認めろ!!

支那から撤兵しろ!!

帝國主義戦争反對!!

昭和四年一月五日印刷	昭和四年一月十日發行	(定價拾錢)
著者	鈴木小兵	
發行所	東京・芝・琴平町二	
印刷所	同聲社印刷所 東京・戸塚下戸塚二九七	
發克	戦争反對同盟準備會 東京・芝・琴平町二	
發賣	マルクス書房 東京・小石川小日向町 振替東京三三九八	

# 無産者政治教程 No.3

青年同盟論

いまや青年同盟と反戦が一番ヒドイ彈壓を受け乍ら、一番勇敢に戦つてゐる。青年コミンタンは帝國主義戦争反對を現下の急務だと決議してゐる、帝國主義戦争の危機切迫せる今日無産青年の負擔と闘争任務は益々擴大されて来る。

一部五十四錢

東京牛込區神樂町二  
振替東京四二八八九

叢文閣

# 月刊國際文化 新年號

一、世界プロレタリア文化の紹介機關  
一、世界左翼文藝戰線の發表機關

五十二錢 (送料共)

神田區美土代町二ノ一  
振替東京二五四〇〇 白楊社

# 無産者政治必携 定價壹圓

昭和四年度版 來春一月下旬發賣

「必携」と「勞農日記」はなくてはならぬ  
日常闘争の武器だ

神田區西紅梅町  
振替二七〇六五 同人社

階級闘争パンフレット

# 工場新聞

一 部  
三十四錢  
(送料共)

無産階級の壓力は工場からだ！ 工場の闘争、工場の宣傳、工場の組織に基礎を置かない階級闘争はカラ駄目だ！ そのために工場新聞が絶対必要だ？ 戦闘的労働者が絶対に讀まねばならないもの。

## 労働組合論レーニン

定價八十四錢(送料共)

支配階級がプロレタリアの政治組織をブチヨワスことに全力をあげて狂奔しつゝある今日、組合の持つ闘争任務は重い。是非必讀

圖書目録進呈

東京市神田區錦町一  
振替東京七四七五五

上野書店

66 02  
15254

